

## I C T活用工事試行要領の運用

I C T活用工事の普及促進を図るために、①～⑤の施工プロセスを選択して活用することを可能としているが、試行期間中の工事の選定、施工プロセスの選択にあたっては以下の点に留意する。

なお、選定工事の決定および施工プロセスの選択については「別紙」により、技術管理課並びに事業主管課と協議を行うこととする。

### 1 発注方法

(1) 発注者指定型（発注者が選定した工事で、I C Tの活用を義務づける工事）

1) 基本的には①～⑤の全ての施工プロセスにI C Tを活用するものとする。

ただし、施工条件などから全ての施工プロセスで活用ができない場合には、施工プロセスを選択して活用することは可能とするが、①～③は必須とする。

2) 工事規模は、切土工、もしくは盛土工の単一工種で、概ね5,000m<sup>3</sup>以上の土工量を有する工事とする。

3) 工事の選定にあたっては、施工場所（施工ヤードが広大等）、施工工程（単一工種で連続施工が可能、現場で工種替えが不必要等）、施工性（障害物の有無、資材など調整工事の有無）などを勘案し選定する。

4) 上記2)の規模に満たない工事であっても、施工場所、施工工程、施工性などを勘案したうえで、生産性の向上が図ることができると見込まれる場合はI C T活用工事として選定することができる。

(2) 施工者希望型（発注者が選定した工事で、受注者の希望によりI C Tの活用が可能である工事）

1) I C Tの活用範囲は、①～⑤の施工プロセスから、受注者が選択をする。

2) 工事規模は、切土工、もしくは盛土工の単一工種で、概ね1,000m<sup>3</sup>以上の土工量を有する工事とする。

3) 工事の選定にあたっては、施工場所、施工工程、施工性などを勘案し選定する。

4) 上記2)の規模に満たない工事であっても、施工場所、施工工程、施工性などを勘案したうえで、生産性の向上が図ることができると期待される場合はI C T活用工事として選定することができる。

### 2 工事成績評価における評価

(1) 発注者指定型

1) ①～⑤の全ての施工プロセスでI C Tを活用した場合は、創意工夫における「【施工】16. 情報化施工技術（国土交通省の技術分類で、一般化技術、一般化推進技術、実用化検討技術及び確認段階技術に限る）を活用した工事」において、評価す

る。(2点加点)

2) ①～③の全てを含む施工プロセスでICTを活用した場合は、創意工夫における「【施工】15. 情報化施工技術（国土交通省の技術分類で、一般化技術に限る）を活用した工事」において、評価する。(1点加点)

3) 受注者の責により指定した施工プロセスの全てあるいは一部において、ICTを活用できない場合は、契約時の条件が履行されないため、「法令遵守等8. その他」において、指定した内容に応じて、減点する。(1点又は2点)

## (2) 施工者希望型

1) ①～⑤の全ての施工プロセスでICTを活用した場合は、創意工夫における「【施工】16. 情報化施工技術（国土交通省の技術分類で、一般化技術、一般化推進技術、実用化検討技術及び確認段階技術に限る）を活用した工事」において、評価する。(2点加点)

2) ①～⑤の施工プロセスのうち、3つ以上の施工プロセスでICTを活用した場合は、創意工夫における「【施工】15. 情報化施工技術（国土交通省の技術分類で、一般化技術に限る）を活用した工事」において、評価する。(1点加点)

3) 上記1)、2)に該当しない場合は、創意工夫における【施工】において、評価対象としない。(加点なし)

4) 受注者の責により提案した施工プロセスの全てあるいは一部において、ICTを活用できなかった場合は、契約時の条件としていないため、減点しないものとする。

## 3 総合評価における評価

ICT活用工事については、工事成績評定により評価を行うため、技術提案にかかる評価の対象としない。

## 4 その他

発注者指定型及び施工者希望型以外で発注した工事であっても、契約後にICTを活用して工事を実施することはできるが、経費の計上は行わない。

なお、工事成績評定における評価については、施工者希望型と同様の取り扱いとする。

## 附 則

この運用は、平成30年1月1日以降起案にかかるものから適用する。

この運用は、平成31年4月1日以降起案にかかるものから適用する。

## ICT活用工事試行協議書

工事名【 】

当該工事において、下記施工プロセスの各段階および作業内容において、ICTを活用する工事とすることを協議する。

施工プロセスの段階		作業内容		採用する技術番号(参考)	技術番号・技術名
<input type="checkbox"/>	①3次元起工測量	/			1 空中写真測量(無人航空機)による起工測量 2 地上型レーザースキャナーによる起工測量 3 トータルステーション等光波方式を用いた起工測量 4 トータルステーション(ノンプリズム方式)を用いた起工測量 5 RTK-GNSSを用いた起工測量 6 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 7 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 8 その他の3次元計測技術による起工測量  ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する。 ※複数以上の技術を組み合わせ採用しても良い。
<input type="checkbox"/>	②3次元設計データ作成	/			※3次元出来形管理に用いる3次元設計データの作成であり、ICT建設機械にのみ用いる3次元設計データは含まない。
<input type="checkbox"/>	③ICT建設機械による施工	<input type="checkbox"/>	掘削工		1 3次元マシンコントロール(ブルドーザ)技術 2 3次元マシンコントロール(バックホウ)技術 3 3次元マシンガイダンス(ブルドーザ)技術 4 3次元マシンガイダンス(バックホウ)技術
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	盛土工		
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	路体盛土工		
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	路床盛土工		
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	法面整形工		
<input type="checkbox"/>	④3次元出来形管理等の施工管理	<input type="checkbox"/>	出来形		1 空中写真測量(無人航空機)による出来形管理技術 2 地上型レーザースキャナーによる出来形管理技術 3 トータルステーション等光波方式を用いた出来形管理 4 トータルステーション(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理 5 RTK-GNSSを用いた出来形管理 6 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 7 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 8 その他の3次元計測技術による出来形管理技術  ※複数以上の技術を組み合わせ採用しても良い。 ※「①3次元起工測量」で採用した技術と相違しても良い。 ※現場条件等から、3次元出来形管理(面管理)が非効率と判断される場合は、従来手法(TS等光波方式を用いた出来形管理等)で管理することを認める。ただし、完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理に準じた出来形計測を行い、⑤によって納品するものとする。
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	品質		1 TS-GNSSによる締固め回数管理技術(土工)
<input type="checkbox"/>	⑤3次元データの納品	/			

注1) ICT活用工事の詳細については、追加特記仕様書によるものとする。

注2) 具体的な工事内容及び対象土工範囲については、契約後、施工計画の提出までに、発注者へ提案・協議し決定する。